



晴天の心

立教 186年9月号
 大阪府富田林市寿町 4-9-10
 URL:www.tomiishi.net
 TEL:0721-23-3466 090-5243-4669



月次祭 9月19日 (火) 午前10時～
 婦人会例会 9月9日 (土) 午前10時～



残暑お見舞い申し上げます。
 とにかく暑い夏です。酷暑。
 日中は気温が室内でも33度くらい、屋外の炎天下では40度近くになっているでしょう。
 屋外での作業だけでなく室内で作業していても適度に水分を補給する必要があります。
 喉が渴いたと感じたら飲むのではなく、その前に適度に飲むことが大事です。
 また、がぶ飲みするのもあまりよくなく、口に含み、一口をゆっくり飲むのがいいと教わりました。
 こどもおちばがえりでは、冷たいお茶のお茶所が程度に用意されていましたが、必ずお塩も置いてありました。水分だけではなく、ミネラルの一つである塩も汗と一緒に出て行くからです。
 なかなか日常生活では意識的に塩を摘まんで取ることはないと思います。ということは、意識せずに採れるように飲み物を考えておくことが大切になります。最近では様々な熱中症対策の飲み物がありますから、それらを上手に飲みましょう。直接ペットボトルから飲むのではなく、出来ればコップに移して、唾液がペットボトルに入らないようにすることは、この暑い時の食中毒対策となります。暑い時期はどうしても冷たい口値のいいものを食べることで、胃腸に負担をかけます。それだけに些細なことから体調を崩しやすくなるでしょう。まだまだ暑い日が続きます。無理しすぎないように。上手に神様からのお知らせを受け取って心倒さないように。

「言葉一つから」
 何よの事も、言葉一つからどういう事も治まる。どういう事も成り立つ。

今日の
 おやのことは



「おやのころ」

先日、出張のために宿泊していたビジネスホテルのロビーで、若い女性に突然、声をかけられました。

「オハス」

オハス??

言葉の意味が分からず怪訝な顔をしていると、また繰り返します。もう一度聞き返して、ようやく「おはようございます」と言っていることに気がつきました。



朝のあいさつだということが分かると、不思議と相手の態度を好意的に感じます。こちら
も笑顔であいさつを返しました。

「何よの事も、言葉一つからどういう事も治まる。どういう事も成り立つ」

コミュニケーションのために、言葉は欠かすことのできないものです。言葉がなくては、
愛する人に気持ちを伝えることも、家族に感謝の心を伝えることもできません。教祖を通
して伝えられた、この世界の真実を知り、人々に教えを伝えることを可能にするのも言葉
の力です。

しかし、自分の気持ちを相手にしっかり伝えるためには、適切な言葉を使う必要があります。
不明瞭な言葉で相手に誤解を生じさせるようでは、言葉の”無駄づかい”になるでし
ょう。時には、何げない言葉が、トラブルのもとになることもあるかもしれません。

日ごろ笑顔であいさつを交わしながら、適切な言葉で自らの思いをしっかりと伝えているだ
ろうかと、自分自身を反省しました。（岡）

<<初心に戻って・・・参拝の仕方>>

天理に来られたら、まずは本部神殿で参拝しましょう。「参拝の仕方が分からない」「お
連れした人にどう説明すれば・・・」という人は、境内地にある「インフォメーションセ
ンター」をお訪ねください。掛員が案内いたします。

礼拝場には靴を脱いであがります。車椅子や足が不自由な方のために回廊にエレベータと
殿内用の車椅子が用意されています。わからないときは、係のものに声をかけて下さい。

教会をお訪ねの場合は、教会在住者に声をおかけください。

<礼拝の仕方>

礼拝は原則、正座で行いますが、足腰の不自由な方、正座の苦手な方は、礼拝場に備えて
あるイスをご利用いただいたり、イスがない場合は、足を伸ばしたりして礼拝されても構
いません。西礼拝場には車椅子エリアもあります。



② 頭を上げて4回手をたたく

① 両手をついて一拝する



参拝のしかた

参拝の仕方

- ①両手をついて一拝します。
- ②頭をあげ四拍手し、両手をついて礼拝します。
- ③日々のお礼やお願いごとなどを申し上げます。
- ④礼拝が終わったら四拍手します。
- ⑤両手をついて一拝します。

礼拝の順序

神殿・親神様

<本部>本部には、東西南北の四つの礼拝場
があります。どちらからでもご参拝いただけ
ます。礼拝場では、神殿の中心にある「ぢば
・かんろだい」に向かって座り、礼拝します。

<教会>教会での場合は、まず「親神様」の
社（やしろ）に向かって座り、礼拝します。

⑤ 両手をついて一拝する

④ 頭を上げて4回手をたたく

このとき、お願いごとや
お礼などを申し上げる



③ 両手をついて礼拝する

教祖殿・教祖（おやさま）

親神様に参拝されましたら、続いて教祖殿へ向かいます。教祖のお姿を拝することはできませんが、今も存命のまま私たちをお見守りくださり、お導きくださっています。

＜本部＞教祖殿は、教祖のお住まいです。神殿の北側に広い中庭があり、その北に位置しています。東礼拝場から教祖殿につながる「回廊」を通して、教祖殿へお進みいただき、御用場および合殿から礼拝します。

＜教会＞教会では、親神様に向かって右側が教祖のお社になります。教祖のほうへ体を向けて、礼拝します。

祖霊殿・祖霊様（みたまさま）

天理教では人の死を「出直（でなおし）」といいます。祖霊殿には、人だすけに尽くされた方々をお祀りして、その遺徳をお偲びしています。

＜本部＞教祖殿での参拝が終わりましたら、教祖殿の西側にある「祖霊殿」へ向かいます。本部祖霊殿には、お社が三つあり、正面、右、左の順に礼拝します。

祖霊殿での礼拝が終わりましたら、西側の回廊を通して、最初に登殿した礼拝場（靴を脱いだ場所）へ戻ります。

＜教会＞教会では、親神様に向かって左側の祖霊様のお社へ体を向けて礼拝します。礼拝が終わりましたら、正面を向き、親神様に軽く一拝して終了です



教会の代表的な配置図

お社の大きさは、教会によって異なります

9月は御霊祭にあたります。19日の月次祭に教会にお祭りしている御霊様に改めて日頃の感謝を伝えさせていただきます。どうぞご参拝下さい。

9月28日～30日

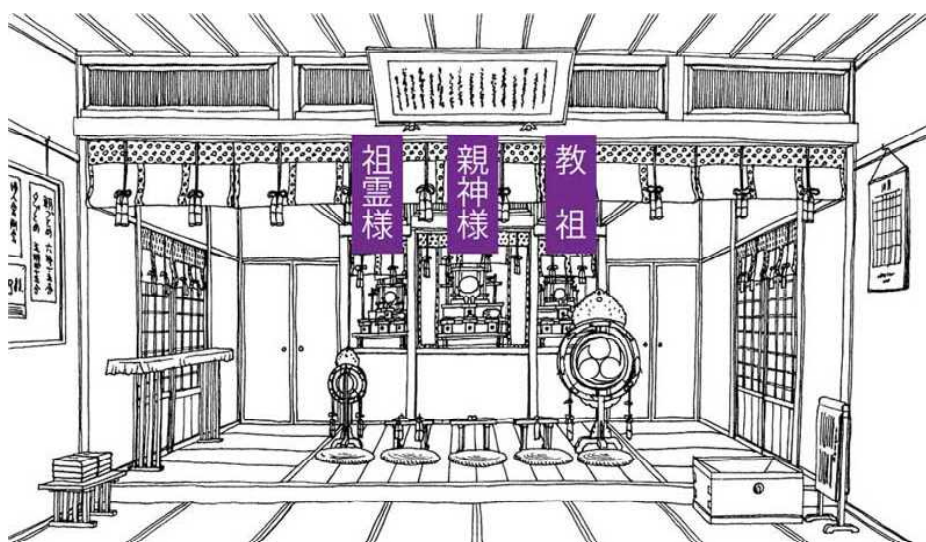
全教一斉にをいがけデー

全国各地で神名流しや路傍講演、戸別訪問が実施されます。

日頃はなかなか出来ない神名流しだと思いますが、どうぞ気軽にご参加下さい。

10月29日 ようぼく一斉活動日

教祖140年祭に向かうとき時旬に、教会へ足を運んでいただき年祭の意義や日々実践できることを確認できる1日です。どうぞ進んでご参加下さい。



教祖伝逸話編

172.前生のさんげ

堺に昆布屋の娘があった。手癖が悪いので、親が願い出て、教祖に伺ったところ、

「それは、前生のいんねんや。この子がするのやない。親が前生にして置いたのや。」と、仰せられた。

それで、親が、心からさんげしたところ、鮮やかな御守護を頂いた、という。

この逸話の内容を現在の視点観点で解説しています。是非、ご視聴下さい。↑



173 皆、吉い日やで

教祖は、高井直吉に、「不足に思う日はない。皆、吉い日やで。世界では、縁談や棟上げなどには日を選ぶが、皆の心の勇む日が、一番吉い日やで。」と、教えられた。

一日はじまる二日たっぷり三日身につく四日仕合わせようなる五日りをふく六日六だにおさまる七日何んにも言うことない八日八方ひろがる九日苦がなくなる十日十ぶん十一日十ぶんはじまる十二日十ぶんたっぷり十三日十ぶん身につく（以下同）二十日十ぶんたっぷりたっぷり二十一十ぶんたっぷりはじまる（以下同）三十日十ぶんたっぷりたっぷりたっぷり三十一日は一月、十二ヶ月は一年、一年中一日も悪い日はない。



78.長者屋敷

教祖が、榊井キクにお聞かせ下されたお話に、

「お屋敷に居る者は、よいもの食べたい、よいもの着たい、よい家に住みたい、と思うたら、居られん屋敷やで。よいもの食べたい、よいもの着たい、よい家に住みたい、とさえ思わなかったら、何不自由ない屋敷やで。これが、世界の長者屋敷やで。」



134.思い出

明治十六、七年頃のこと。孫のたまへと、二つ年下の曾孫のモトの二人で、

「お祖母ちゃん、およつおくれ。」と言うて、せがみに行くと、教祖は、お手を眉のあたりにかざして、こちらをごらんになりながら、

「ああ、たまさんとオモトか、一寸待ちや。」と、仰っしゃって、お坐りになっている背後の袋戸棚から出して、二人の掌に載せて下さるのが、いつも金米糖であった。又、ある日のこと、例によって二人で遊びに行くと、教祖は、

「たまさんとオモトと、二人おいで。さあ負うたろ。」と、仰せになって、二人一しょに、教祖の背中におんぶして下さった。二人は、子供心に、「お祖母ちゃん、力あるなあ。」と感心した、という。

註一 この頃、たまへは、七、八才。モトは、五、六才であった

註二 およつは、午前十時頃。午後二時頃のおやつと共に、子供がお菓子などをもらう時刻。それから、お菓子そのものをも言う。

